

一般社団法人日本女性医学学会
平成 24 年度社員総会
議事録

日 時： 平成 24 年 10 月 14(日) 12:10～13:10
場 所： 山形国際ホテル 平成西
出席者数： 定数:147 名 出席者:114 名(委任状提出者 72 名を含む)
役員出席者： (理事) 水沼 英樹 可世木久幸 倉智 博久 五來 逸雄 堂地 勉
(監事) 大藏 健義 太田 博明
(名誉会員) 伊藤 博之

[開会の辞]

水沼理事長より本会定款第 18 条および第 19 条により、代議員 147 名に対し、114 名(委任状提出者を含む)出席により、本総会が成立したことの報告があった。

本会定款第 17 条により、木村好秀代議員が推薦、承認された。

議事録署名人として木村好秀議長、安井敏之代議員、甲村弘子代議員が指名され、承認された。

議長に選出された木村代議員より挨拶があった。

総会に先立ち平成 23 年度総会より平成 24 年 9 月 30 日までにご逝去された 6 名に対して、黙祷がささげられた。

[審議事項]

1. 平成 23 年度事業報告(案)について

樋口庶務担当幹事より平成 23 年度事業報告(案)について以下の項目の報告がなされ、承認された。

① 会員動向

全会員数:1,809 名(平成 24 年 3 月 31 日現在)／前年比+96 名

② 学術集会・ワークショップの開催

・第 26 回日本女性医学学会(旧:日本更年期医学会)学術集会

会期:平成 23 年 11 月 12 日(土)～13 日(日)

会場:神戸国際会議場(兵庫県神戸市)

会長:苛原 稔(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部産婦人科学教室教授)

・第 17 回日本女性医学学会(旧:日本更年期医学会)ワークショップ

会期:平成 24 年 2 月 5 日(日)

会場:はまぎんヴィアマーレ

実行委員長:可世木 久幸(日本医科大学武蔵小杉病院産婦人科教授)

③ 学会誌刊行(編集委員会)

・19 巻 1 号(Vol.19, No.1)発刊 :平成 23 年 5 月

・19 巻 2 号(Vol.19, No.2)発刊 :平成 23 年 11 月

・19 巻増刊号(Vol.19, suppl.)発刊 :平成 23 年 10 月／第 26 回学術集会抄録号

・学会名称変更に伴い、装丁・サイズ変更(第 19 巻 1 号より)

④ ニュースレター発行(編集委員会)

・Vol.17 No.1(平成 23 年 5 月)、Vol.17 No.2(平成 23 年 9 月)・Vol.17 No.3(平成 24 年 1 月)発行

⑤ 学会ホームページ(渉外広報委員会)

- ・学会名称変更に伴い、WEB サイトリニューアル(平成 23 年 5 月 26 日正式稼動)
- ・各種学会事業についての情報更新、更年期医療に関する情報掲載(文献アーカイブ等)
- ⑥ 学会賞、学術奨励賞、学会指定プログラム(学術研修委員会)
 - ・学会賞:対象者なし
 - ・学術奨励賞:第 26 回学術集会における一般演題 7 題より選考し、以下 2 名に決定。
 - 伊東 雅子(藤田保健衛生大学医学部産婦人科)
 - 平光 史朗(東京医科歯科大学周産・女性診療科)
 - ・学会指定プログラム:第 26 回学術集会時に開催
- ⑦ JMW H Bayer Grant(学術研修委員会)
 - 大石 元 (東京大学医学部産婦人科学教室)
 - 寺内 公一(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生殖機能協関学)
 - 平沢 晃 (慶應義塾大学医学部産婦人科学教室)
- ⑧ 学術調査研究事業(調査研究委員会)
 - ・「女性の生活習慣と健康に関する疫学研究:全国ナースを対象にした大規模コホート研究; Japan Nurses' Health Study」(群馬大学医学部保健学科医療基礎学との共同研究) の継続
 - 1) JNHS 追跡調査(2, 4, 6 年後調査票の送付)
 - 2) 調査対象者全員への JNHS ニュースレター送付
 - 3) JNHS 関連委員会(運営委員会、疾病評価合同委員会など)の開催
- ⑨ 認定制度事業(認定制度委員会)
 - ・平成 23 年度認定審査試験実施(平成 23 年 8 月 21 日) 受験者 63 名中 61 名合格。
 - ・認定審査試験結果分析
 - ・来年度認定審査試験ならびに更新に向けての準備
- ⑩ 2013 年 第 5 回アジア太平洋閉経学会(5th APMF)準備(APMF 組織委員会)
 - ・5th APMF WEB サイト立上
 - ・5th APMF 準備(主要プログラム検討)
- ⑪ 更年期医療ガイドブック関連事業(女性医療推進委員会)
 - ・更年期医療ガイドブック改訂における内容の再検討と改訂に向けての準備
 - 平成 23 年度認定審査試験受験者に更年期医療ガイドブックに関するアンケート実施
- ⑫ HRT ガイドライン関連事業(女性医療推進委員会)
 - ・HRT ガイドライン改訂に向けての準備
 - 2012 年改訂版(案)作成。第 26 回学術集会中にコンセンサスマーティングを開催
- ⑬ 医療保険改定(女性医療推進委員会)
 - ・医療保険改定にむけて準備
- ⑭ 学会法人化(将来検討委員会)
 - ・一般社団法人日本女性医学学会定款案作成。学会 WEB サイト上に掲載し、パブリックコメントを募集(平成 23 年 6 月 10 日～7 月 15 日)
 - ・一般社団法人日本女性医学学会定款細則案作成。検討
 - ・平成 24 年 4 月 1 日に登記。
- ⑮ その他
 - ・世界メノポーズデーに伴うイベントの実施(平成 23 年 10 月 18 日～10 月 24 日)
 - ・早発卵巣不全に関するガイドライン作成のため新委員会立上(早発卵巣不全委員会)

2. 平成 23 年度収支決算(案)について

堂地会計主担当理事より、平成 23 年度収支決算(案)について報告がなされ、承認された。

<一般会計>

収入: ¥17,390,445(達成率:103.3%)

支出: ¥20,868,010(執行率:86.7%)

単年度収支: △ ¥3,477,565

<特別会計>

収入: ¥12,497,190

支出: ¥13,343,765

単年度収支: △ ¥846,575

大蔵監事より財産目録・特別会計を含め、監事3名による監査を行った結果、適正・正当であることが認められたとの報告があり、承認された。

3. 平成24年度第1期事業報告(案)について

樋口庶務委員会主担当幹事より平成24年度第1期事業報告(案)について以下の項目の報告がなされ、承認された。

① 会員動向

全会員数: 1,866名(平成24年8月31日現在) / 前年比+122名

② 学会誌刊行(編集委員会)

・20巻1号(Vol.20, No.1)発刊 : 平成24年5月

③ ニュースレター発行(編集委員会)

・Vol.18 No.1(平成24年5月)発行

④ 学会ホームページ(渉外広報委員会)

・各種学会事業についての情報更新、更年期医療に関する情報掲載(文献アーカイブ等)

⑤ 学会賞、学会奨励賞、学会指定プログラム(学術研修委員会)

各賞に関する内規を改定し、学会賞・学会奨励賞・優秀演題賞を設置。

・学会賞: 堂地 勉(鹿児島大学医学部産婦人科教室 教授)

・学会奨励賞:

<基礎研究部門> 高橋 一広(山形大学医学部産婦人科教室 准教授)

<臨床研究部門> 寺内 公一(東京医科歯科大学東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
女性健康医学講座(寄附講座) 准教授)

牧田 和也(牧田産婦人科医院 院長)

⑥ JMW H Bayer Grant(学術研修委員会)

倉林 工(新潟市民病院)

原田美由紀(東京大学医学部附属病院女性診療科・産科)

河端恵美子(帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科)

⑦ 学術調査研究事業(調査研究委員会)

・「女性の生活習慣と健康に関する疫学研究: 全国ナースを対象にした大規模コホート研究; Japan Nurses' Health Study」(群馬大学医学部保健学科医療基礎学との共同研究)の継続

1) JNHS 追跡調査(2, 4, 6年後調査票の送付)

2) 調査対象者全員へのJNHS ニュースレター送付

3) JNHS 関連委員会(運営委員会、疾病評価合同委員会など)の開催

⑧ 認定制度事業(認定制度委員会)

・平成24年度認定審査試験実施(平成24年8月19日) 受験者25名中25名合格。

・認定審査試験結果分析

・来年度認定審査試験ならびに更新に向けての準備

・平成24年度更新対象者申請書類作成

⑨ 2013年第5回アジア太平洋閉経学会(5th APMF)(APMF組織委員会)

・5th APMF 準備(主要プログラム、演者検討)

- ⑩ 更年期医療ガイドブック関連事業(女性医療推進委員会)
 - ・更年期医療ガイドブック改訂における内容の再検討と改訂に向けての準備
- ⑪ HRT ガイドライン関連事業(女性医療推進委員会)
 - ・HRT ガイドライン 2012 年度版発行にむけて準備。9 月 15 日発行予定。
- ⑫ 医療保険改定(女性医療推進委員会)
 - ・医療保険改定にむけて準備

4. 平成 24 年度第 1 期収支決算報告(案)について

堂地会計主担当理事より、平成 24 年度第 1 期(案)について報告があり、承認された。

本年度より平成 20 年度公益法人会計基準に基づいた会計書類に形式を変更。一般会計、特別会計の区別をせずに会計書類を作成する。

単年度で 41,849,949 円 の黒字決算。次年度への繰越金は 41,849,949 円

事業活動収入合計	18,869,953 円
事業活動支出合計	13,443,994 円
財務活動収入	36,423,990 円 (任意団体一般会計・特別会計含めた繰越金)
計	41,849,949 円 (達成率 150.0%)

平成 24 年度第 1 期貸借対照表・財産目録案について

平成 24 年度第 1 期末(平成 24 年 8 月 31 日)における口座残高から前払金をプラスし前受金、未払金、預り金を減算。

- 1) 前払金 1,500,000 円(学術集会開催補助費・ワークショップ開催補助費)
- 2) 前受金 1,508,000 円(ニューズレター18-2、平成 25 年度会費)
- 3) 未払金 1,303,972 円(事務局委託費など)
- 4) 預り金 3,000,000 円(グラント)

正味財産合計は 41,849,949 円、負債および正味財産合計は 47,661,921 円となった。

大蔵監事より、監事 3 名による監査を行った結果、適正・正当であることが認められたとの報告があり、承認された。

5. 平成 24 年度第 2 期事業計画および収支予算について

水沼理事長より、平成 24 年度第 2 期事業計画および収支予算について、平成 23 年度総会にてすでに承認された事項であるが、確認のため説明がなされた。

【平成 24 年度第 2 期事業計画(平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日)】

①庶務委員会

<役員会開催>

平成 24 年度第 2 期第 1 回理事会開催(10 月)・平成 24 年度社員総会(10 月)

第 2 期第 2 回理事会開催(4 月)・第 2 期第 3 回理事会開催(8 月)

平成 24 年度第 2 期第 1 回幹事会開催(9 月)・第 2 期第 2 回幹事会開催(1～2 月)

第 2 期第 3 回幹事会開催(6～7 月)

②会計委員会

<会費請求>

平成 24 年度第 1 期および第 2 期分会費再請求(9 月、1 月)

<会計監査>

平成 24 年度第 1 期収支決算監査

③学術研修委員会

＜学術集会・ワークショップの開催＞

- ・ 第 27 回日本女性医学学会学術集会開催(10 月)
- ・ 第 18 回日本女性医学学会ワークショップ開催(2～3 月)

＜学会賞・学術奨励賞・JMWH Bayer Grant・学会指定プログラム＞

- ・ 学術奨励賞:第 27 回学術集会における一般演題より選考
- ・ 学会指定プログラム:第 27 回学術集会時に開催
- ・ 学会賞:平成 25 年 5 月末応募締切
- ・ JMWH Bayer Grant:平成 25 年 6 月末応募締切

④ 編集委員会

＜学会誌・ニューズレター刊行＞

- ・ 学会誌第 20 巻 2・3 号(vol.20-2・3)発刊(10 月・4 月)
- ・ ニューズレター第 18 巻 2～4 号(vol.18-2～4)発行(9 月・1 月・4 月)

⑤ 渉外広報委員会

＜学会 WEB サイト運営＞

- ・ 各種学会事業についての情報更新、女性医学に関する情報掲載

＜世界メノポーズデー事業＞

- ・ 世界メノポーズデーに伴うイベントの実施

⑥ 調査研究委員会

＜女性の生活習慣と健康に関する疫学研究＞

- ・ 全国ナースを対象にした大規模コホート研究「Japan Nurses' Health Study」(群馬大学医学部保健学科医療基礎学との共同研究)の継続

＜早発閉経に関する指針作成＞

- ・ 早発卵巣不全委員会(小委員会)にて早発閉経に関する指針を作成

⑦ 認定制度委員会

＜認定制度事業の運営＞

- ・ 平成 24 年度認定試験開催(平成 24 年 1 月申請、8 月実施予定)
- ・ 平成 25 年度認定試験開催準備(平成 25 年 1 月申請、8 月実施予定)
- ・ 認定更新に向けての準備

⑧ 将来検討委員会

＜学会の将来のあり方を検討＞

- ・ 学会の将来のあり方について検討

⑨ APMF 組織委員会

＜2013 年第 5 回アジア太平洋閉経学会(5th APMF)準備＞

- ・ APMF WEB サイト随時更新
- ・ 一般演題募集、参加登録実施、当日配布物決定など

⑩ 女性医療推進委員会

＜更年期医療ガイドブック・HRT ガイドライン・医療保険改定など＞

- ・ 更年期医療ガイドブック改訂における内容の再検討と改訂に向けての準備
- ・ HRT ガイドライン改訂に向けての準備
- ・ 医療保険改定にむけて準備
- ・ 卵巣摘出術後女性のヘルスケア調査

【平成 24 年度第 2 期予算(平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日)】

収入: ¥5,800,000

支出: ¥23,700,800

単年度収支: △ ¥17,900,800

6. 本学会認定名称について

水沼理事長より広告標榜ができる専門医を目指すには、日本専門医認定評価機構に学会の専門医制度を認めていただくことが必要になること、そのためには認定名称を「〇〇学会認定〇〇専門医」という名称に変更する必要があることが報告された。幹事会・理事会にて協議を行い、認定名称について「日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医」と「日本女性医学学会認定更年期専門医」の2つの案が残り、理事会では「女性ヘルスケア専門医」の方がよいのではないかと結論となった。今回の社員総会にて、この名称でよいかどうか、また名称変更後、専門医制度を確立するため現在の認定者を暫定指導医としてもよいか、という点について協議いただきたいとの意見があった。

(宮原代議員) コメディカルの名称はどうなるのか

→(水沼理事長) 「認定***」「学会認定〇〇専門***」のいずれかを考えているが、専門医制度の体制が整い次第、コメディカルの名称については改めて検討したい。

→(小川代議員) 今回議論となっている議論は医師の専門医制度の在り方についてであるので、誤解がないようにしていただきたい。

(伊藤名誉会員) 人間ドック学会・検診学会などで、専門医の名称に「ヘルスケア」を使用している可能性があるため、それらの名称と紛らわしくなる場合があるなら「更年期医療専門医」とした方がよい

→(水沼理事長) 専門・認定に「女性ヘルスケア」という名称を使用している学会はなかった。

(角沖代議員) もし機構に認められなかった場合はどうなるのか。

→(水沼理事長) 認定(専門)医制度はなくなりますが、第三者機関から認められていない学会独自の制度として続けることになり、広告標榜はできない。

(角沖代議員) そうであれば機構に認めてもらうことを第一優先として、より通りやすい名称(更年期医療専門医)に変更し、とりあえず認めてもらった方がよいのではないかと。

→(水沼理事長) その意見は幹事会・理事会でもあったが、学会の理念通り「女性ヘルスケア専門医」として正面突破をしようという結論となったので、応援をしていただきたい。

(可世木理事) 来年度認定試験を合格した方の名称はどうするか。

→今までの名称を踏襲し、制度が整った時点で名称を暫定指導医に変更する。

これらの議論を踏まえたうえで採決を行った結果、賛成多数により本学会が認定する専門医は「女性ヘルスケア専門医」とすること、また現在の認定者が暫定指導医になることが承認された。

7. その他

① 第5回アジア太平洋閉経学会(5th APMF)について

水沼理事長より、開催を1年後に控え準備が本格的になってきていること、成功させるためには演題や参加者を集めることが大切であり、代議員の方にもぜひ協力いただきたいとの意見があった。

② コメディカルとの連携について

コメディカルとの(医療)連携を強化するため、他学会ではメディカルスタッフを呼び込もうとする活動が活発になっている。本学会でもコメディカル対策委員会を作っていただきたいとの意見があり、水沼理事長より今後検討するとの意見があった。

[報告事項]

1. 第 27 回学術集会について

倉智理事より山形国際ホテルにおいて、昨日より開催されている第 27 回学術集会について滞りなく進行していることの報告があり、御礼が述べられた。

2. 第 29 回学術集会会長についての選任について

水沼理事長より、第 29 回学術集会会長は久保田理事(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生殖機能協関係学 教授)が理事会において選任されたことの報告があり、承認がなされた。

3. 第 18 回ワークショップについて

若槻理事より第 18 回ワークショップの準備状況についての説明があった。

- ・会期:平成 25 年 2 月 24 日(日) 10:50~16:00
- ・会場:ウイングあいち
- ・メインテーマ:女性医学に求められるウイメンズヘルス

4. 第 19 回ワークショップについて

水沼理事長より、第 19 回ワークショップ実行委員長は櫻木理事(北海道大学医学部産婦人科 教授)が理事会において選任された旨報告があり、承認がなされた。

5. その他

特になし

閉会の辞:木村議長より総会参加への謝辞が述べられた。

以上

前記記載事項が議事内容と相違ないことを確認し、代表者3名ここに署名捺印する。

議事録署名人

木村 好秀 議長

木村 好秀 (木村)

安井 敏之 代議員

安井 敏之 (安井)

甲村 弘子 代議員

甲村 弘子 (甲村)